

令和3年度 文部科学省・岐阜県教育委員会指定 道徳教育パワーアップ実践校

# 大垣市立北中学校 公表会

## 研究主題

**自己を見つめ、よりよい生き方を求める道徳教育**  
 ～さらに、人間性豊かな実践力のある北中学生を目指して～



- 1 期日 令和3年11月5日（金曜日）
- 2 会場 岐阜県大垣市立北中学校  
 〒503-0016 岐阜県大垣市八島町2290  
 TEL 0584-78-3591 FAX 0584-78-3543  
 E-mail kitachu@ogaki-city.ed.jp

## 3 公開授業

13:20 13:40 13:55 14:05 15:05 15:15 15:40 15:55 16:15 16:25 16:30

受付	日程 説明	生徒会 発表	実践発表	休憩	研究会 (グループ交流)	全体交流 (グループ発表)	指導 講評	校長 あいさつ	感想 記入
----	----------	-----------	------	----	-----------------	------------------	----------	------------	----------

学級	授業者	内容項目	資料名
1年1組	畑山 美恵	A-(3) 向上心、個性の伸長	自分の性格が大嫌い!
1年2組	高橋 古都美	D-(19) 生命の尊さ	決断! 骨髄バンク移植第一号
1年3組	清水 正和	D-(19) 生命の尊さ	決断! 骨髄バンク移植第一号
1年4組	大橋 擁太郎	A-(3) 向上心、個性の伸長	自分の性格が大嫌い!
2年1組	庄司 貴治	B-(9) 相互理解、寛容	遠足で学んだこと
2年3組	小川 恭平	C-(12) 社会参画、公共の精神	住みよい社会に
3年1組	小木曾 真子	D-(19) 生命の尊さ	生まれてきてくれてありがとう-助産師からのメッセージ-
3年2組	杉山 善章	C-(12) 社会参画、公共の精神	加山さんの願い
3年3組	和田 光平	C-(12) 社会参画、公共の精神	加山さんの願い
3年4組	田邊 志保子	D-(19) 生命の尊さ	人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える-
きらめき2組	室谷 真衣子	C-(13) 勤労	世界がおどろく七分間清掃

# 研究の全体構想

## 【研究における背景】求められている道徳

- ・今日、道徳教育の抜本的充実が求められている。その背景として、深刻ないじめの本質的な解決に向き合うこと、決まった正解のない予測困難な時代を生きる生徒を育てることが求められている。そして、自らの人生や社会における答えが決まっていない問いを受け、多様な他者と議論を重ね追究し、「納得解」を得るための資質・能力が求められている。
- ・道徳教育において、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を目標としており、特に道徳科では「量的確保」と「質的転換」が求められている。

## 【本校の生徒の実態】

- ・日々の授業に真面目に取り組む生徒が多いが、授業に向き合う姿勢にばらつきがあり、仲間と学び深め合う姿勢を身に付ける必要がある。
- ・多くの生徒が落ち着いて生活することができている。しかし、自己肯定感が低い生徒や自分の将来に夢や希望をもてない生徒もいる。自分に自信をもち、困難の中でも生き抜く力を身に付ける必要がある。
- ・一小一中ということ人間関係が固定しやすい傾向があり、先入観にとらわれた見方をしている生徒がいる。
- ・地域のボランティア活動などに積極的に参加する生徒が多い。

## 【研究を通して目指す生徒の姿】

- ・道徳的価値について自分との関わりも含めて理解する中で自分のよさや生き方について考え、自己の内面を見つめ、多面的・多角的に考察する姿。
- ・主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者とよりよく生きようとする姿。
- ・多様な生き方と出会い、自己の生き方を真摯に見つめることができる姿。

## 【研究主題】

**自己を見つめ、よりよい生き方を求める道徳教育**  
 ～さらに、人間性豊かな実践力のある北中生徒を目指して～

## 【研究内容①】

道徳科を特別活動や生活と関連させ、学校教育全体で道徳教育を推進するための工夫

- 行事や特別活動と道徳を関連させ、意図的に指導する年間指導計画の工夫
- 「いじめ」「生命の尊さ」を大切にしたい年間指導計画の作成
- 「北辰の誇り」や「北中学校人権の五観点」を核とした特別活動の工夫

## 【研究内容②】

道徳の諸価値について多面的・多角的に考察し、自己をみつめる授業の工夫

- 主体的に自己の生き方について考えを深める教材・授業指導過程の工夫
- 多面的・多角的に考察することができる指導過程の工夫
- 理想とする学習状況を描いた指導と、その評価の一体化

## 【研究内容③】

地域や家庭と連携し、特色ある道徳教育の取組の実践

- 地域や家庭と連携し、ともに創る道徳科の授業
- 小学校、PTAや地域と連携して行うあいさつ活動の充実
- 地域での諸活動やボランティア活動に自主的に参加する生徒の育成

## 【基底となる教育活動】

### 北 辰 の 誇 り

聴く・語る   あいさつ   プロフェッショナル掃除   合唱

### 北中学校 人権の五観点

行為   言葉   礼節   責任   呼応

# 【研究内容①】

道徳科を特別活動や生活と関連させ、学校教育全体で道徳教育を推進するための工夫

## ○行事や特別活動と道徳を関連させ、意図的に指導する年間指導計画の工夫

令和3年度 大垣市立北中学校

第3学年 年間指導計画

テーマ	実践目標	主題名	内容項目	資料名	ねらい	関連行事
第Ⅰターム 新しい出会いを大切に する春	・新しい生活の中で、自分を見つめ直し、よりよい生活を求める気持ち育てる。	道徳の授業はこんな時間に	C-(1)0	美咲の選択	道徳の授業の進め方について理解する。	
		日々を見つめて	A-(2)	早朝ドリブル	生活のリズムの乱れに導く主人公の姿を通して、心身の健康と望ましい生活習慣との関わりを理解し、進んで節度と調和のある生活をしようとする意欲を育てる。	情報モラル ウィーク スポーツの 集い スポーツの 集い
第Ⅱターム 仲間と互いに 支え合う初	・生かす物事任せて、目標や課題の中で自分を見つめる心育てる。	経験したことをもとに 自分を見つめる	道徳科授業	特別活動 日常生活・ 行事など	道徳的価値について 学んだことを実践する	人権集会
		いじめのない世界へ(2)	A-(1)	ある日の午後から	主人公の心情の変化について考えることを通じて、自主的な考えのもとに誠実に実行し、行動の結果に責任をもととする心情を育てる。	人権集会

## ○「いじめ」「生命の尊さ」を大切にしたい年間指導計画の作成

第Ⅱターム  
仲間と互いに  
支え合う

・生活の充実を図るため、進んで物事に取り組み、責任をもってやり抜く態度を育てる。  
・日常生活の中での様々な取り組みや係活動の中で自分を見つめる心育てる。

1年生  
ふるさとの大垣科  
いじめのない世界へ(1)

2年生  
本当の友情とは  
たがいに支え合う社会  
いじめのない世界へ(1)

3年生  
いじめのない世界へ  
いじめのない世界へ(3)

1年生  
B-  
心から信じ合える友  
新しいものを生み出す

2年生  
いじめのない世界へ(1)

3年生  
いじめのない世界へ

【いじめ】【生命の尊さ】の授業については、全学年級の教室に掲示する

主題名「いじめのない世界へ」  
内容項目 A-(1) 自由と責任  
資料名 「あの子のランドセル」

「みんなの心に残った言葉」  
・あの子の心の傷は一生消えない  
・「大丈夫」と言っているけど、本当は大丈夫じゃないこともある

指導要領改訂の趣旨でもある【いじめ】【生命の尊さ】についての授業は、全学年で同時期に設定し、系統的に学び、つなぐ

## ○「北辰の誇り（生徒会の伝統）」や「北中学校人権の五観点」を核とした特別活動の工夫

他の教育活動と関連付ける

学級活動

地域行事

責任

行為

ボランティア活動

部活動

ふるさと大垣科

聴く語る

あいさつ

言葉

北辰の誇り  
人権の五観点

行為

呼応

部活動

教育相談

掃除

合唱

朝の会・帰りの会

委員会・係活動

教科の授業

生活の記録

【北中学校 人権の五観点】 行動 言葉 礼節 責任 呼応

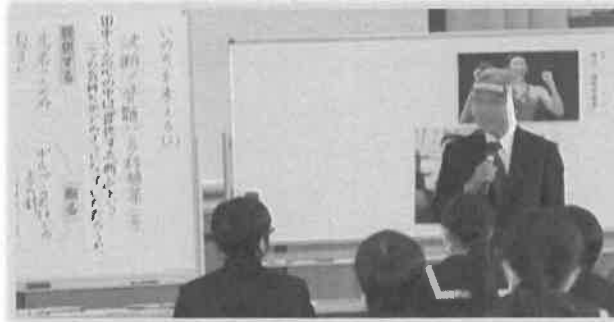
道徳科の授業では、常に【北中学校人権の五観点】と関連付けて授業を行う

- 年間指導計画に関連行事や「いじめ」「生命の尊さ」について、全校統一で位置付けたことによって、様々な活動と道徳の授業をつなぐことができた。
- 生徒会の伝統である『北辰の誇り』や『人権の五観点』を常に意識し、道徳の授業や特別活動を仕組むことで、生徒主体の道徳教育を推進することができた。

## 【研究内容②】

道徳の諸価値について、多面的・多角的に考察し、自己をみつめる授業の工夫

○主体的に自己の生き方について考えを深める教材・授業指導過程の工夫

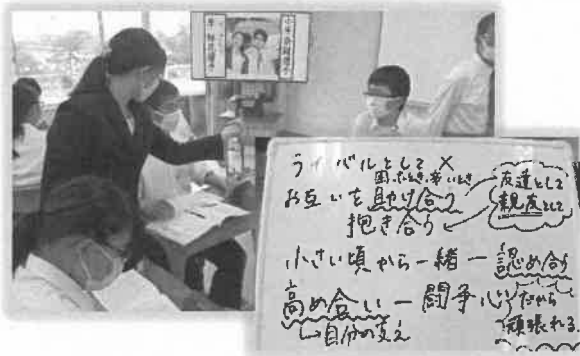


＜教材資料の本人による語り＞

＜ビデオによるメッセージ＞



○多面的・多角的に考察することができる指導過程の工夫

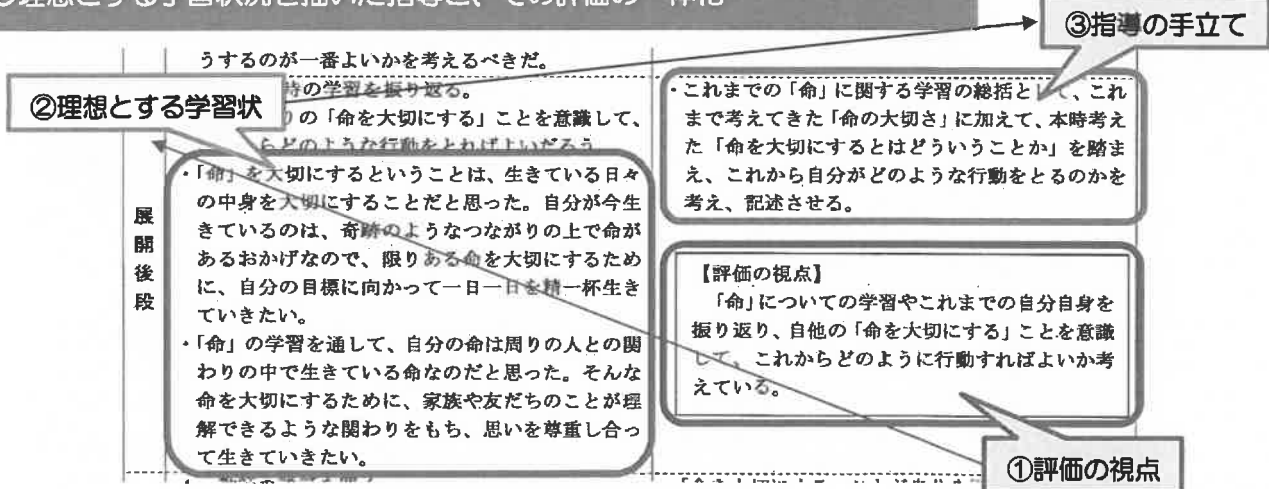


＜ホワイトボードを活用したグループ交流＞



＜タブレットを活用した全体交流＞

○理想とする学習状況を描いた指導と、その評価の一体化

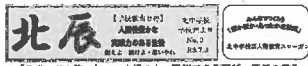


- ゲストティーチャーを招いたことで、中学生が遠い世界の話に感じてしまいそうなことも、ぐっと自分のこととして引き寄せて考えさせる効果があった。また、来てもらえない時には、オンラインやビデオメッセージを活用した。特にビデオメッセージは、授業者が意図する活用をしやすい。
- 新たに一人1台のタブレット端末を活用することで、他生徒全員の考えを瞬時に知ることができ、自分の考えと比較し、自分の考えを広めたり深めたりすることができた。
- 道徳の授業において、教師が「評価の視点」を明確にして「理想とする学習状況」を具体的に描くことで、「指導の手立て」を考えることができ、生徒の考えを深めたり、実践力を高めたりすることができた。

# 【研究内容③】

## 地域や家庭と連携し、特色ある道徳教育の取組の実践

### ○地域や家庭と連携し、ともに創る道徳科の授業



#### 学校だより



#### 【7・8月の行事予定】

日	行事	日	行事
1	水 入学式(1日目)	7	土 入夏祭(1日目)
2	木 入学式(2日目)	8	日 入夏祭(2日目)
3	金 入学式(3日目)	9	月 入夏祭(3日目)
4	土 入学式(4日目)	10	火 入夏祭(4日目)
5	日 入学式(5日目)	11	水 入夏祭(5日目)
6	月 入学式(6日目)	12	木 入夏祭(6日目)
7	火 入学式(7日目)	13	金 入夏祭(7日目)
8	水 入学式(8日目)	14	土 入夏祭(8日目)
9	木 入学式(9日目)	15	日 入夏祭(9日目)
10	金 入学式(10日目)	16	月 入夏祭(10日目)
11	土 入学式(11日目)	17	火 入夏祭(11日目)
12	日 入学式(12日目)	18	水 入夏祭(12日目)
13	月 入学式(13日目)	19	木 入夏祭(13日目)
14	火 入学式(14日目)	20	金 入夏祭(14日目)
15	水 入学式(15日目)	21	土 入夏祭(15日目)
16	木 入学式(16日目)	22	日 入夏祭(16日目)
17	金 入学式(17日目)	23	月 入夏祭(17日目)
18	土 入学式(18日目)	24	火 入夏祭(18日目)
19	日 入学式(19日目)	25	水 入夏祭(19日目)
20	月 入学式(20日目)	26	木 入夏祭(20日目)
21	火 入学式(21日目)	27	金 入夏祭(21日目)
22	水 入学式(22日目)	28	土 入夏祭(22日目)
23	木 入学式(23日目)	29	日 入夏祭(23日目)
24	金 入学式(24日目)	30	月 入夏祭(24日目)
25	土 入学式(25日目)	31	火 入夏祭(25日目)

#### ～北辰キリリ☆ちよっと素敵な話～

(このコーナーでは、道徳授業の取組や、生徒・保護者・地域の皆さんのキリリと輝く素敵な姿を紹介いたします。)

今年度、北中学校では『道徳教育』の研究を行っています。6/24には、1年3組の道徳科の授業を具教育委員会、西濃教育事務所や人垣市教育委員会の先生方に見ていただきました。温かい雰囲気で見学者の意見を聴く姿や自分の考えの表出に自ら気付く姿が素晴らしい姿を褒めてくださいました。

1年生の道徳授業の様子を見て思ったことがあります。それは、教師の範疇中、読み物資料にさっと線を引く生徒の姿が多いことです。確かに読み物資料の中で、主人公に共感する所や問題点と思う所に線を引くことで、範疇後に行う『感想交流』に自信をもって挙手することができます。きっと、今までの北小学校の道徳の授業で指導されてきたことなのでしょう。小学校指導のよいところを中学校でも取り入れていきたいと感じた場面でした。



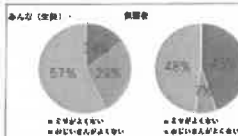
【道徳科】 道徳科授業の取組  
7/15(水) 17:30から3年生  
の道徳科授業の様子を撮影  
しました。授業の様子を  
撮影し、PTA(親子)で  
見学しました。授業の  
様子や、生徒の感想を  
紹介します。

## たからばこ

### 道徳「宝塚方面行幸一面北口駅」の授業を興えて

初めてみんなでこの話を聞いた時、「このお話しが面白いよー」「1日1日!!」という意見がいろいろ出た。その後もお家の人の意見も聞いてきてもらいました。

中2のみんなは、向年代のミサの立場になってよく考えてくれたので、発表の順番で出るお話しに順番を立て、ミサが何を話そうかと決まっていた。もちろんお話しをのめりながら話さず、みんなの意見に耳を傾け、もう一度お話しを聞いてもらいました。みんなの意見に耳を傾け、もう一度お話しを聞いてもらいました。



しかし、お話しが面白くないという意見も出てきました。しかし、お話しが面白くないという意見も出てきました。

### 学級通信

お話しが面白くないという意見も出てきました。しかし、お話しが面白くないという意見も出てきました。

このことから、みんなにもお話しが面白くないという意見も出てきました。しかし、お話しが面白くないという意見も出てきました。

道徳のお話し、大人になっても聞くべきお話しがたくさんあります。みんなも聞いてみてください。みんなも聞いてみてください。

～授業の振り返りから～  
ミサは、お話しが面白くないという意見も出てきました。しかし、お話しが面白くないという意見も出てきました。

### ○小学校、PTA や地域と連携して行うあいさつ活動の充実



生徒会が交通安全協会とつかったのぼり旗を使ったあいさつ活動

#### 社会福祉協議会と生徒会が連携した古切手回収



コロナ禍でもできるPTA 資源回収代替としての空き缶回収

### ○地域での諸活動やボランティア活動に自主的に参加する生徒の育成



『秋の全国交通安全運動』啓発活動



『大垣市防災動画ボランティア』参加

- 学校・学年だよりや学級通信、ホームページを活用し、道徳教育の様子を発信したり、生徒と保護者が、同じ資料を読み、捉え方を比べたりすることで、地域と保護者・生徒が一緒になって考えるきっかけとなった。
- あいさつ活動を核として「小中児童生徒会」を実施したり、「あいさつ」と「交通安全」の標語を募集してのぼり旗を作成したりする等、生徒会が主体となって動き、活動を広げた。これらの活動を通して、PTAや地域の方との繋がりが増え、地域を愛する心や周りの支えてくださる方への感謝の気持ちが高まった。
- コロナ禍で、地域での諸活動は激減したが、全校の半数以上がMSJリーダーズに登録して交通安全運動の啓発活動に参加したり、3年生の約半数が市主催のジュニア防災士養成講座を自主的に受講したりして「助けられる中学生」から「助ける側の中学生」へという意識が高まっている。

北中学校では、創設当時より『北辰』という言葉が大切にされてきました。「北辰魂」「北辰の精神」「北辰の誇り」など、時代によって言葉や使い方は変わっていますが、目指すもの・根底・核なるものは同じです。



生徒会では、『北辰の誇り』の目指す姿を、

- 『聴く語る』 ありのままの心を伝える姿 仲間の思いを心で受け止める姿  
『あいさつ』 温かな空気をつくり、心のかかわりを増やす姿  
『掃除』 将来使うであろう名前も知らない誰かのために、心を込めて行う姿  
互いに気持ちよく生活するために、一心に校舎を磨く姿  
『合唱』 人の心に響くよう、思いを込めて歌う姿  
「誰かを喜ばせたい」という人間の美しい心を磨く姿

と考えています。

75年間受け継がれてきた『北辰の誇り』を、形だけでなく、そこに込められた願いを胸に、仲間とともにこだわり、人と人との繋がりの中で高め、次へと引き継いでいきます。

令和3年度生徒会長 前期：■■■■ 後期：■■■■

## ご挨拶

数年前、「社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた」ことが指摘されていましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、その指摘が今すでに現実のものとなっています。本校の文部科学省及び岐阜県教育委員会による「道徳教育地域支援事業」の指定は、まさにその渦中での研究となりました。

昨年度、学習指導要領改訂に伴う「特別の教科 道徳」について、本校の生徒の実態や地域の実情を踏まえ、「自己を見つめ、よりよい生き方を求める道徳教育～さらに、人間性豊かな実践力のある北中生徒を目指して～」を校内研究主題に掲げました。しかし、感染拡大により事業は中止となり、保護者や地域と連携した活動も見送らねばならなくなりました。そこで、要となる道徳の時間における「考え議論する」について考えながら、より価値に迫るための手法等について試行錯誤する1年となりました。

その中、道徳科の授業を一変したのは、GIGAスクール構想による一人1台タブレットの導入です。いかに有効活用できるのかを考える中で、道徳科における不易と流行を明確にして実践に取り組むことの必要性を感じました。

今年度は、研究実践に際し、

- 多面的・多角的に考察することができる指導過程の工夫
  - 理想とする学習状況を描いた指導と、その評価の一体化
  - 地域や家庭と連携した道徳性を育む実践の充実
- これらの3点を主に取り組むことに加え、
- 道徳科におけるICT機器の有効活用
- についても重点に置き、取り組んできました。



本校は、人権を大切にしている学校です。生徒が、生徒会人権宣言に基づく「人権の五観点（行為・言葉・礼節・責任・呼応）」をいつも意識し、生活を行うよう努めています。コロナ禍において、生徒と教師が共に取り組んできた本校の実践を、実際に観てご指導をいただきたいと思っておりましたが、感染拡大防止の観点から、それもかたがたありません。リーフレット及び指導案集をご一読いただき、今後の実践の参考にしていただければ幸いです。

最後に、本研究にあたり、岐阜県教育委員会、西濃教育事務所、大垣市教育委員会、そして関係の皆様他、ご指導・ご支援いただきました多くの方々に心より感謝申し上げます。

令和3年11月5日

大垣市立北中学校 校長 田辺 美樹

## 研究に携わった教職員

＜令和2年度＞ 高橋篤、林のり子、増野麻里子、水谷大悟、尾関真緒、澤藤かよ子

＜令和3年度＞

1年部：志知容臣、畑山美恵、高橋古都美、清水正和、大橋擁太郎、牛嶋優衣

2年部：川瀬貴史、庄司貴治、平塚育恵、小川恭平、室谷真衣子、田中瑞奈、辻村幸三

3年部：寒田丈太郎、小木曾真子、杉山善章、和田光平、田邊志保子、河合千寿子、岩本香

校長：田辺美樹 教頭：青木信幸 教務：野下あゆみ 生徒指導：清水裕士 養護教諭：仙田あかり

事務職員：山田清枝 スクール相談員：杉野智子 適応支援員：田中波津子 少人数指導：伊藤きぬ子